

受賞者の概要

受賞者名	農事組合法人おきす（代表理事組合長 <small>いいつか</small> 飯塚 <small>せつお</small> 節夫）
住所	島根県出雲市斐川町沖洲1765
設立年	平成27年
耕地面積	水田 67.7ha（うち事業参加面積 67.7ha） 普通畑 0.4ha（うち事業参加面積 0.4ha）
主要作物	水稲：43.0ha、大麦：18.4ha、ハトムギ：23.1ha、 ひまわり：3.9ha、白ネギ：0.6ha、キャベツ：0.9ha 等
事業名	国営農業用水再編対策事業
地区名	斐伊川沿岸地区（平成17年度～平成28年度）

【取組の概要】

□ 地域の将来を見据えた法人化と「経営ビジョン5カ年計画」の策定

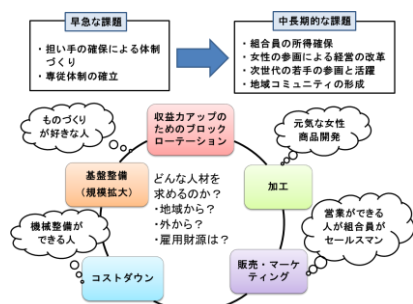
出雲縁結び空港に隣接する「沖洲地区」にあった3つの営農組合が、平成16年9月に合併し「おきす営農組合」を設立。その後、組織と事業の継続に向けた若い主たる従事者の確保を第一の目的として平成27年1月に「農事組合法人おきす」を設立。設立後には、近い将来の担い手不足が予想されることから専従者雇用体制への転換を考え、平成27年9月に「経営ビジョン5カ年計画検討委員会」を設置。若手組合員を含む6名の委員に支援機関（県、市及びJA）を加えたメンバーで、県外の先進地視察等も行いながら、「しっかり儲けて、みんなで楽しく」という法人像の具体化に向けた経営ビジョン5カ年計画の策定を進めている。

□ 水稲部門における新品種と低コスト技術の導入

水稲では、「コシヒカリ」の高温障害に対応するために、県が推奨を予定していた「つや姫」を平成23年にいち早く導入。安定生産で成果を上げたことから斐川町や県内の栽培面積も年々拡大している。低コスト技術では、鉄コーティングによるたん水直播栽培や疎植栽培を導入しており、低コスト化と労働力軽減を図りながら、高位安定収量を確保している。また、今年から県内の法人としていち早くGPSガイダンス農業を導入し、誰が作業しても無駄なく効率的に機械作業が行える体制の構築を計画している。

□ 農地集積や景観作物による地域への貢献

法人化の際には、地区外や組合員以外の農地を含め農地中間管理事業を活用して集積したほか、約7haを作業受託し、周辺地区も含めた耕作放棄地の発生抑制に貢献。集積した農地では、構成員間の話し合いにより畦畔除去による大区画化を進め、大型機械による省力的な農作業体系の確立を目指している。また、営農組合時代から空港に隣接するほ場で栽培しているひまわりは、開花時期には他県からの観光客も花を見に訪れており、地域の活性化にも貢献している。



経営ビジョン5カ年計画の検討



たん水直播の播種作業



ひまわりのほ場